

—高崎短期大学音楽科(昭和56年4月開設予定)—

本館落成記念演奏会記念講演会



本日は高崎短期大学音楽科(開設予定昭和56年4月1日)
の本館落成記念演奏会記念講演会に多謝御参加下さいまして心よ
り御礼申し上げます。

このたびの盛しには北海道から九州まで日本全国から音楽

専攻に精一杯お応え致して参りたいと思っております。
また、この音楽短期大学のために、並々ならぬ御尽力を下さいました関係各位、並びに関
係各方面の諸先生方に改めて御礼申し上げます。

群馬文芸会館を礎とする音楽の都高崎に音楽大学を設立することの重要性は所界諸先生の
御指導のとおりであります。地味な中、おられる今日、その先駆的役割を担って
本日は“新しい伝統の創造”を期しております。

日本音楽の発展に貢献するべく、今後とも努力を怠りません。



に諸先生方の御協力を得、新しい構想を加えて一歩を踏み出すとしていきます。
誠にとりましても経歴浅いものがありますが、この責務を果たすためにさらに努力を盡
意して参っておりますので今後とも宜しく御指導をお願い申し上げます。

’80年 5月31日(土)/6月1日(日)

(学)堀越学園吉井町校地本館1階ホール

主催 高崎短期大学設立準備委員会
本館落成記念演奏会記念講演会実行委員会

御 挨 拶



堀 越 久 良

本日は高崎短期大学音楽科（開設予定昭和56年4月1日）の本館落成記念演奏会講演会に多数御参加下さいまして心より御礼申し上げます。

このたびの催しには北海道から九州まで日本全国から音楽を愛する方々の御参加をいただき私といたしましてもその御

厚意に精一杯お応え致して参りたいと存じます。

また、この音楽短期大学のために、並々ならぬ御尽力を下さいました県民各位、並びに関係各方面の諸先生方に改めて御礼申し上げます。

群馬交響楽団を擁する音楽の都高崎に音楽大学を創立することの重要性は斯界諸先生の御指摘のとおりであります。地方文化の時代と言われる今日、その先駆的役割を担って本学は“新しい伝統の創造”に取り組んでみたいと考えております。

日本音楽の将来を展望する上で大きな視野を持ったすぐれた人材の育成を目指すこと一、教育音楽の分野において日本固有の音楽（邦楽）と外国音楽（西洋、その他の民族音楽）を平等にとり上げてゆくことは誠に重要な現代的課題と申せましょう。

本日のプログラムにおきまして Sir ERVIN NYIREGYHAZI のピアノ演奏がございしますが、ハンガリーの5音音階は日本音楽にも通じ、またハワイ大学の米人2教授の講演及び箏曲、尺八の演奏は「世界の中の日本音楽」の位置を知る上で大変意義深いものと申せましょう。

十有余年前、故近衛秀麿先生が本学に参られて、はじまった音楽大学設立の運動が、今ここに諸先生方の御協力を得、新しい構想を加えて一步を踏み出そうとしています。

私にとりましても感慨深いものがありますが、この重責を果すためにさらに努力を重ねていく決意でありますので今後とも宜しく御指導をお願い申し上げます。

（学校法人堀越学園理事長）

祝 辞

田 辺 尚 雄

明治から大正にかけては洋楽と邦楽とは全く異質の芸術として相対立していたが、大正の中頃天才宮城道雄が出て、邦楽に洋楽を加味する努力に成功してより、その影響を受けて、その他の邦楽家達は邦楽と洋楽との結び付きに努力したが、一方に於てわが洋楽の作曲家達は全く邦楽に関心をを持っていなかった。然るに終戦後わが洋楽の作曲家も邦楽の価値を認め、洋楽と邦楽との統合に努力するようになり、茲に新しい日本音楽が生れ出る道を開いた。それにも係らず、わが音楽教育家は依然として邦楽と洋楽とを別種の音楽として取扱っている。これでは新時代に則する日本音楽は生れて来ない。

ここにわが高崎短期大学は、この弊を打破して邦楽と洋楽とを統合して教授する新法を採用したるは将来の正しい日本音楽を創造する上に甚大の効果あるものと認め心から之を喜び、広く世に推奨する次第である。

(東洋音楽会名誉会長)
(武蔵野音楽大学名誉教授)

音楽教育の軌道修正に期待

吉 川 英 史

小、中学校の音楽教育は、永い間洋楽教育一辺倒であった。近年日本伝統音楽が加わったが、それも刺身のツマに過ぎない。

芸大ができる時、時の学校当局も文部省も邦楽を排除する方針であった。それに対して、東京音楽学校の邦楽科教員が総辞職し、卒業生の協力を得て世に訴え、ようやく入れられた邦楽科は、結局、芸大音楽部付属邦楽科の観を呈している。

こうした現象は音楽教育ばかりではない。大平正芳を Masayoshi Ohira と逆に書いて、何の抵抗も感じないようになっているのが現在の日本人である。

この日本の逆立文化を是正する意味でも、高崎短期大学の教育方針は、正に画期的である。日本の音楽教育の革命ともいえるだろう。この音楽教育の軌道修正は、宇宙衛星の軌道修正以上の大事業である。心から成功を祈る。

(「季刊邦楽」主幹)
(宮城道雄記念館館長)

スミス、トリミロス両教授を迎えて

岸 辺 成 雄

ハワイ大学音楽学部は、UCLAと共に、米国における民族音楽学の先駆です。1930年、スミス教授は民族音楽学の講座開設を思い立ち、大学を説得し、準備のために来日されました。1932年に、私が最初の客員教授として招かれた時は、スミス教授がお一人で奮闘しておられました。以来25年、日本、琉球、韓国、中国、フィリッピン、ジャワ、インド、ポリネシアなどの民族音楽研究のメッカの一つになりました。トリミロス教授はUCLAのマントル・フード教授の逸足で、スミス教授を助けて今日の大研究所を完成されたのです。1973年に再び招かれた私は、同大学の東西文化センターと共に、ハワイならではの姿をもつ大規模な研究の施設と内容に目を見張りました。スミス教授の念願する東西学生の交換が、本大学を通じて実現することを祈って止みません。

(東京大学名誉教授)
(文学博士)



英語版

新グロヴ世界音楽大事典 全20巻

英国マクミラン出版社刊 The New GROVE Dictionary of Music & Musicians

編集責任者 スタンリー・セイディ 15.5×25.5cm., 15,000総ページ, 22,500項目収録

100年の歴史をもち、英語で書かれた唯一の音楽大事典“Grove”の全面改訂版。クラシックからジャズ、ポピュラーまで音楽百般の知識を2,000名に及ぶ世界の一流専門家が執筆しています。

第一巻好評発売中 全20巻 定価：¥380,000

今後の配本スケジュール…… 6月：第2巻～第5巻／7月：第6巻～第10巻
9月：第11巻～第15巻／10月：第16巻～第20巻

●ご用命と資料のご請求は最寄りの丸善本・支店へどうぞ。

本店：東京・日本橋 全国各地に支店出張所

日本
総代理店

M

丸善

ごあいさつ

田 辺 秀 雄

本日は御多忙の中、遠方の地に多数御来会を頂き、まことに有難うございました。

高崎短期大学音楽科は、昨年文部省に設立認可を申請、第1次審査を通過し、ここにご覧のような校舎が完成致しました。

本日は、その落成式として、米国より著名な民族音楽学者及び音楽家を招くことになった次第であります。

本短期大学は、その建学に当って、幾つかの特色を持って出発したいと考えております。その最大なるものは日本の伝統音楽及びそれに基づく現代音楽を大々的に取り上げることで

す。

即ち従来の音楽大学では過去百年になろうとする洋楽中心の教育であり、それに日本音楽を取り入れるという形でありましたが本学においては和洋両音楽を兼修せしめることにし、以て日本人の民族性を生かした新らしい国民音楽の創造を行なって行きたい所存であります。

これを国際的に見ますと、諸外国の中にも、こうした方針をとっている国も多く、また国内的にも民族の伝統文化が重要視されている現状であり、義務教育の音楽に対しても、このような意見の多いのに対して、これは是非実現したいと関係者一同深く念願しております。

更に、音楽博物館、民族音楽研究所等の開設も予定して居ります。その他、地域との連帯についても考慮し、理想的な音楽大学の形態を鋭意研究して居ります。

御来場の皆様のみでなく、大方の御厚意、御援助、御協力、激励の御言葉を是非頂戴致したく、御挨拶と致します。

(本学主任教授・名誉学長予定者)

東京三洋電機株式会社

群馬県邑楽郡大泉町坂田180
TEL 0276 (63) 2111

● 紹介 BIOGRAPHY

☆ バーバラ・スミス教授

ハワイ大学音楽学部教授でピアニスト。

ニューヨーク、イーストマン音楽院でピアノを学ぶ。

彼女は、ソリストとしてニューヨーク、ハワイ、韓国で活躍をしてきた。

1949年よりハワイ大学に奉職以来、ハワイ人の文化、音楽の研究を続けるかたわら、箏曲を初め、1956年ロックフェラー・ファウンデーションの援助により来日、宮城道雄に師事した。また、アジア各国の民族音楽の分野にも手を広げ、ハワイ大学にアジア音楽研究コースを設定した草分け的存在である。

彼女は東洋音楽、アジア、太平洋地域の音楽を米国音楽教育の中に取り入れさせるために大変な尽力をした。その比類なき功績は世界的な評価を受けている。

現在も国際的な音楽教育、研究活動を続け指導者として中心的な存在である。日本音楽の尽大な理解者、そして米国に於ける日本音楽の紹介者として日本音楽に多大の功績を残している。

☆ Prof. Barbara B. Smith

Barbara B. Smith is Professor of Music at the University of Hawaii.

Her early training and professional activities were in piano. She earned the Master of Music degree in Music Literature and the Performer's Certificate in Piano at the Eastman School of Music of the University of Rochester (New York). She taught piano and theory there and at the University of Hawaii.

She performed in recital frequently and was soloist with orchestras in New York, Hawaii and Korea.

After joining the faculty of the University of Hawaii in 1949, she became interested in the traditional musics of the cultures from which Hawaii's people had come and in 1955 began studying O-koto with Kay Mikami. In 1956, on the first of three grants from the Rockefeller Foundation, she went to Tokyo to study O-koto with Miyagi Michio and traveled throughout Asia to collect library materials on Asian folk and traditional musics for the University. In 1957 she organized and taught a course on Asian musics, and during the following years guided the development of what has become an extensive program in ethnomusicology at the University of Hawaii which now includes among its faculty eight specialists in Japanese genres.

In addition to training ethnomusicologists, she has been active in encouraging all music students to develop an appreciation for Asian musics and all elementary

● 紹介 BIOGRAPHY

school music teachers to include Asian and Pacific Islands music in their music courses.

Professor Smith has been a Senior Fellow at the East-West Center, Visiting Professor at several institutions, External Examiner for doctoral candidates in Australia and New Zealand and participated extensively in international conferences. She has been a member of the Editorial Board of Music Educators Journal, consultant to UNESCO-Oceania, and an officer of the College Music Society and the Society for Ethnomusicology.

☆ リカード・トリミロス博士

リカード・トリミロス博士は、ハワイ大学教授（民族音楽学）で、音楽学部の部長である。彼は、米国に於ける初めての音楽学部長であるばかりでなく日本音楽を豊富に経験しているという点に於いて特異な存在である。

彼は、現在のハワイ大学における日本音楽の基礎を創ったバーバラ・スミス教授の影響を強く受け、日本音楽の充実に寄与して来た。彼自身は、箏曲を最も得意としているが、雅楽や、ハワイはもちろんその他のアジアの特異な民族楽器の演奏も心得ている。そして、特筆すべきことは、歌舞伎を長年にわたって研究し、講師と学生でスタッフを構成したことである。ハワイ大学の歌舞伎は米国各地でも上演され、その紹介に務めたが、中心的役割を果たしている博士の存在は大きい。

国際民族音楽会議のメンバー、ユネスコ、アジア、コンサルタント、National Endowment for the arts (USA) のスタッフ、フィリッピン文化センター、アドヴァイザーでもある博士は、国際的な講演活動を行い、民族音楽の普及、日本音楽の研鑽に尽力している。

☆ Dr. Ricardo D. Trimillos

Dr. Ricardo D. Trimillos is currently chairman of the Music Department at the University of Hawaii. An ethnomusicologist, his areas of research interest include popular music of America, music of Southeast and East Asia, and the interaction of music and society.

He is active in the performance and study of traditional Japanese music since 1962, when he studied at the University of Hawaii. He is a performer of koto, jushichigen, and the instruments of the gagaku court ensemble. His koto studies are in the Ikuta School, principally with Kay Mikami--a student of the late Michio Miyagi. D. Trimillos has been music director for kabuki plays in English at the

●紹介 BIOGRAPHY

After making his debut in the performance of "Chikurai Gosho", he played works of modern Japanese music composers, such as Michio Mamiya, Maki Ishii, Minoru Miki.

He also tried to study shakuhachi music and develop his performance repertory.

☆ アルヴィン・ニレジハージ氏

1903年ブダペストに生れる。

父は同地国立オペラ合唱団所属のテノール歌手であり、母は優れたアマチュアのピアニストであった。3才で完全な音感を身につけ、4才半の時にピアノのレッスンを始めた。このころ作曲を手がけ始めたが、それは「日本的」なものであったという。1909年6才の時に彼の作品の発表とハイドン、グリーク、ショパン等によるリサイタルをたびたび行っている。翌1910年、音楽学校に入り、理論をレオ・ワイナー、アルバート・シコスにピアノをリストの弟子であったイストバン（ステファン）・トーマン及びトーマン自身の弟子のアーノルド・ゼクリーに師事した。

1914年父の死によってベルリンへ移り、オーストリア、ドイツ、ハンガリーへの演奏旅行を行い1915年ベルリンフィルとの協演を行いデビューした。ヨーロッパに於けるニレジハージの名声は増々上がり1920年10月18日カーネギーホールに於ける演奏で17才のニレジハージはモーツァルト以来の天才ピアニストとして比類なき地位を得るに至った。

以下1920年12月11日付の記事（1部）「若々しい精神にみなぎり……たやすくごく自然に音の流れがほとばしり出る……みせかけのための努力はみられない、不快な職人芸もない……矢の如く真すぐに彼は座し、頭を上へ向けて、鍵盤をちらりとも見ないで、自分の音のつむぎ織りの迷宮に完全に心を奪われている——感動的な人物、ピアノの天才……このピアノの驚異に面と向って、人は素朴で気どりのない人格の若き人間を見い出す……この若いピアノの巨匠がもたらす感動は、行間を読みとることが出来る人々に強く訴える……彼は、彼の芸術的方法を追求しながら、た



1980・3・30(日)

ドリス夫人と共にパーシングスクエアにて。

● 紹介 BIOGRAPHY

たとえばピアノの巨匠達があふれるような時期にあっても、勝利を得るであろう。

しかし、あまりにも純粹でありすぎた彼はやがて混濁した社会との溝を深め1925年以後演奏活動を停止してしまう。その後50年もの間自らの善美なる魂を傷つけることなくリストの研究と作曲に没頭して来た。リストに関する論文は惜しくも失なわれたが、作品は1980年3月で1,000曲を超え、現在も作曲を続けている。市井の聖者にも似た彼の人生的苦勞は想像を絶するものがあるが、氏の純粹な精神はその苦勞によって少しも汚されることなくより磨き上げられ、結集され、私達の前にその人格そのものの演奏を展開してくれるでしょう。

☆ Sir Ervin Nyiregyhazi

Hungarian pianist Ervin Nyiregyhazi was born on January 19, 1903, in Budapest. His father was a tenor, and his mother, a pianist. Nyiregyhazi's prodigious abilities became readily apparent when, at the age of three, he demonstrated perfect pitch. At four and a half, he began piano lessons and wrote his first formal compositions. When Nyiregyhazi was six years old, he made his public debut in Fiume playing Haydn, Grieg, and Chopin, as well as his own works.

In 1910, Nyiregyhazi became a regular student at the Academy of Music, doing well in his piano studies with Istvan (Stephan) Toman, who had studied with Liszt, and Arnold Szekely. After the death of his father in 1914, Nyiregyhazi and his family moved to Berlin. In Berlin, during 1915, several events transpired that were to significantly mold the pianist's artistic views. In May of that year, he was given the opportunity to hear Busoni, one of the only two pianists to ever influence him (the other was Paderewski). It was also during this time that the event Nyiregyhazi has called the most important in his life took place: His introduction to Liszt.

Although several of Liszt's compositions were in Nyiregyhazi's repertoire, they had made no real impact on the young pianist. At the suggestion of a colleague, violinist Ferenc Vecsey, Nyiregyhazi obtained the score of the Liszt Piano Sonata. He described his reaction: "It was the deepest, most profound experience I ever had. I became ill, I got a fever." The Liszt Piano Sonata became the turning point in Nyiregyhazi's life, kindling an almost supernatural obsession with the composer's works. Indeed, Nyiregyhazi was rumored by some critics to be the very re-incarnation of Liszt.

Nyiregyhazi's orchestral debut came in 1915, with the Berlin Philharmonic under Max Fiedler, and the pianist continued his studies with Erno Dohnanyi and Liszt

● 紹介 BIOGRAPHY

pupil Frederic Lamond. The ensuing years saw concertizing throughout Europe and an extensive Scandinavian Tour. In 1920, Nyiregyhazi was contracted for his first U.S. appearance.

The Carnegie Hall debut, on October 18, 1920, was hailed as "the sensation of the season," with major critics calling Nyiregyhazi "an unsurpassed master," "a genius," and "uncannily gigantic." Highly acclaimed recitals in New York and Boston followed, and, after his American triumph, Nyiregyhazi decided to make New York City his permanent home. However, under the management of R.E. Johnston, the pianist began to encounter problems, finding himself billed as an "assisting artist." In 1925, over a fee dispute, Nyiregyhazi sued Johnston, and subsequently lost the case. An uncommon practice at the time, Nyiregyhazi's action incurred unfavorable publicity. By 1927, Nyiregyhazi had virtually faded from the public eye, playing an occasional concert in Europe during the 1930's. After wandering throughout Europe and the United States, he finally settled in Los Angeles, remaining there for twenty years, devoting his time to studying Liszt and writing his own compositions, which currently number over ~~seven~~¹⁰ hundred.

Nyiregyhazi's extraordinary emergence from obscurity was due, indirectly, to the last of his nine wives, Elsie. In order to raise money for his wife's medical bills, Nyiregyhazi was persuaded to give several recitals in San Francisco, California. It was on May 6, 1973, at the Old First Church in San Francisco, that Nyiregyhazi was "rediscovered." A West Coast Representative of the International Piano Archives, armed with a cassette recorder, happened upon the recital, and made a tape of the performance. This tape, coupled with studio sessions produced by IPA president Gregor Benko, resulted in a commercial release of an all-Liszt album. The enthusiastic response of major critics to this record spurred national attention for the "forgotten" pianist. The Ford Foundation, represented by Richard Kapp, entered the picture with a grant under which future recordings could be undertaken.

☆ レコード

* アルヴィン・ニレジハージ

第一集 (プレイズリスト) STEREO 50AC 439~440 2枚組 ¥5,000

第二集 (グリーク・チャイコフスキー・ボルトキエヴィチ)

STEREO 25AC 758 ¥2,500

発売中!

株式会社 CBS・ソニー

特 別 協 賛 者

安 藤 株 式 会 社	代表取締役	安 藤 直 典
井上工業株式会社	代表取締役	井 上 房一郎
株 式 会 社 煥 乎 堂	代表取締役	高 橋 徹
古久松木材株式会社	代表取締役	中曾根 吉太郎
高崎共同食事協同組合	理 事 長	八 木 富次郎
暢 神 荘	代表取締役	八 木 富次郎
松井鉄工株式会社	代表取締役	松 井 一 雄
松尾楽器株式会社	代表取締役	松 尾 博
有限会社富岡建設	代表取締役	富 岡 博
ラジエ工業株式会社	代表取締役	富 田 賢 二

(五十音順)

* 御茶席のご案内

5月31日(土)・6月1日(日)1:00～4:00の間、3階和式ホールに於て抹茶席を設けております。ご来場の皆様にはふるってご来場賜わります様ご案内申し上げます。(無料)

協賛：大日本茶道学会高崎支部

鈴 木 秀 仙 社 中

アシスタント

片 平 香 樵 社 中

5.31

~~Liszt~~ Sunt lacrymarum Rerum

Liszt: ^{Fountains} ~~Gypsies~~ of Villa D'Este

Schubert: The Wanderer

Rachmaninoff: Prelude in B minor

Liszt: Excerpts from the Oratorio St. Elizabeth

Tschaikowsky: Aria from the Opera "Onegin"
" : Valse in A flat

Chopin: Mazurka in A minor

Grieg: From the Days of Youth

Brahms: Intermezzo in E flat minor

Liszt: The Three Gypsies

Erin Nijinskyhagi

May 31, 1980

Verdi: Il Trovatore

Wagner: Excerpts from Rienzi and Lohengrin

Liszt: Music of the Shepherds

Liszt: March of the Three Holy Kings

Tscharnaby: from the "Seasons"
January, April, July

II Romance in F minor

Blanchet: The Sultan's Garden

Schubert: Röselin

Debussy: Pagodes

Liszt: March of the Crusaders

Evin Nyirgyslagi
June 1, 1980